

# 『光の子どもらしく①』

'23/01/08



聖書箇所：エペソ人への手紙 5章8節（新約 p.379）

この、エペソ書の学び…、特に、4章に入ってから、何度も何度も、同じようなことをみことばは訴えています。エペソ 4:1 では、『…召されたあなたがたは、その召しにふさわしく歩みなさい。』、また、エペソ 5:1 では、『…愛されている子どもらしく、神にならう者となりなさい。』、そして、今日の聖書箇所である、エペソ 5:8、『あなたがたは、以前は暗やみでしたが、今は、主にあって、光となりました。光の子どもらしく歩みなさい。』って…。正直、あまり何度も…、同じようなことを皆さんに申し上げているので…、私自身、ちょっと申し訳ない気持ちになっている部分もあります。しかし！私は、何ら間違ったことを話しているつもりはありません。なぜなら、明らかに、聖書のみことばが、そういったことを教え…、また、特に、この個所でそういったことを強調しているからです！

「信仰さえ持っていたら…、ちゃんと、イエス様を信じて救われて“さえ”いたら…、もうそれで良い…」とは、みことばは教えません。…と言うのは、皆さんを救ってくださった、神様には、ちゃんとした…、「神様の側の目的」があるからです！もう何度も学んでいることですが…、エペソ 2:8-10 のみことばは、こう教えますでしょ？『8 あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。9 行いによるものではありません。だれも誇ることもないためです。10 私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです。』って…。

また、つい先週にも引用したみことばですが、I コリント 6:19-20 のみことばは、こう教えてくれています。『19 あなたがたのからだは、あなたがたのうちに住まれる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたは、もはや自分自身のものではないことを、知らないのですか。20 あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。ですから自分のからだをもって、神の栄光を現しなさい。』…このように、救われた私たちクリスチャンは、生ける神様が私たちの内に住んでくださり、もはや、自分だけのものではありません！だから、私たちは、神様の栄光を現わすべきだし…、また、それができます。

何度も何度も、念を押しますが、私たちの良い行ないによって、そのこと“ご褒美で”、神様が私たちを救ってくださるわけではありません！救われて…、神様のものとされたから、神様に倣って生きていこうとするのです！救われたから…、聖書の言う、良い行ないをしていくことができるのです！

## 命題：光の子どもらしい歩みとは、どのようなものなのでしょう？

さて、今日からは、エペソ 5:8 以降を学んでいきたいと思えます。まあ、こしばらくは同じような命題ですが…、光の子どもらしい歩み…、つまり、救われた者らしい歩みとは、どのようなものなのか、ということを持って学んでいきます。初めに、今日の聖書箇所をもう1度、ご紹介いたします。エペソ 5:8 には、こう記されています。

8 あなたがたは、以前は暗やみでしたが、今は、主にあって、光となりました。光の子どもらしく歩みなさい。

## I・そこには、必ず、良い実が実る！（8-9節）

私たちが光の子どもらしい歩みをしていく時に、何が起るのでしょうか？⇒まず、このみことばが教えてくれているのは、そこには、必ず、何らかの良い実が実る！ということです。当然のことながら…、その実は、神様が喜んでくださるものであり、神様の御性質を現わすようなものなのです。…と言いましても、肝心の9節は、来週に学んでいきたいと思えます。

## ●『以前は 暗やみ でした…』とは？

実は、今日のところは、私たちは、その、実について学ぶことは致しません。その前に、今一度、私たちが、神様によって変えられたのだ！ということ学んでいきたいと思えます。…と言いますのは、ここ8節が、そのことを、まず、教えるようしてくれているからです。

どうぞ、8節をご覧いただくと、ここでも対比がなされています。かつての私たちは暗闇であり…、今は光とされた、と言うことです。信仰が…、あるいは、神様が私たちを変えてくださった、ということは言うまでもないでしょう…。しかし、このみことばを注意深く観察してみますと…、救われる前の、かつての私たちが「暗闇の中に居た」とか…、「暗闇の中を歩んでいた…」、というように教えられてありません。「かつての私たちが暗闇そのものであった！」と言うのです！これは、一体、どういうことなのでしょう？

このことを理解するために、どうぞ、マタイ 6:22-23 をご覧くださいませ？ここで、イエス様は、こんなことを教えてくださいました。『22 からだのあかりは目です。それで、もしあなたの目が健全なら、あなたの全身が明るいが、23 もし、目が悪ければ、あなたの全身が暗いでしょう。それなら、もしあなたのうちの光が暗ければ、その暗さはどんなでしょう。』って…。

⇒今日のみことばにあった、『暗やみ』(σκότος)と同じギリシア語の言葉が、今の23節で2回使われています。以前に学んだ箇所ですが、当然、ここでは、物理的な目の話…、つまり、視力が良いとか、悪いという話をしてはなりません。

実は、ここで、イエス様がおっしゃっておられることは、(目の)焦点の話…、ちゃんと物事が正しく見えているかどうか、ちゃんと、1つのことに、その焦点(フォーカス)が集中しているかどうか、ということなのです。どうして、そんなことが言えるのか？と言いますと、…ここで、イエス様がおっしゃられた、『健全』と訳されている言葉(ἀπλοῦς)は、「健全な」という意味の他に、「単純な、単一な(心が一つである、一つのものに集中している)、一途、純粋できれい(=澄んでいる)」という場合に用いられる言葉で、言い換えれば、「一意専心」(=ひたすら一つの事に心を集中すること)、つまりは、余計なものに、目が奪われていない状態のことを表わそうとする言葉なのです。

ここ22節の初めで、イエス様は、『からだのあかりは目です。』と教えてくださいましたが、実は、この当時の考えで、目とは、からだの中にあかりが差し込んでくるような…、所謂、からだに対して、窓のような存在であると考えられていました…。つまり、目が『健全』であるということは、当然そこから、からだに差し込んでくるあかりも多くなりますけれども、その逆に、目が澄んでいなければ、その曇りのせいで、からだの中に多くのあかりは差し込んでできません。ですから、ここ23節の最後で、イエス様は、『あなたのうちの光が暗ければ…』なんて言って…、まるで、私たちの目が澄んでいて、そこから、ちゃんと光が差し込んでいるかどうか？なんていう表現を、イエス様は使われたのだと思われませう。

つまり、ここマタイ6章で、イエス様がおっしゃっておられることは…、ちゃんと、私たちの目の焦点が合っているかどうか？見るべきものが、果たして、見えているかどうか？その人の心が正しい方向に向いているかどうか？他のものに心が奪われていないかどうか？ということをお尋ねされるのです。だから、この直前の、マタイ6:21で、イエス様は、『あなたの宝のあるところに、あなたの心もあるからです。』ということをお教えたのでした！

だから、どうぞ、その少し後、マタイ6:24をご覧ください。『だれも、ふたりの主人に仕えることはできません。一方を憎んで他方を愛したり、一方を重んじて他方を軽んじたりするからです。あなたがたは、神にも仕え、また富にも仕えるということはできません。』⇒クリスチャンの皆さん、あなたのご主人は誰ですか？あなたが1番に仕えている御方は、果たして、真の神様でしょうか？…それとも、お金や財産や地位や名誉な

ど、神様以外のものでしょうか？…イエス様は、おっしゃいます、「あなたは、その両方に仕えることはできませんよ！」って…。

また、もう1箇所、ヨハネ9章をご覧ください。ここは、生まれつきの盲人が癒された…、感動的なシーンですが、そのすぐ後の、ヨハネ9:39-41で、イエス様は、こう教えてくださいました。『39 そこで、イエスは言われた。「わたしはさばきのためにこの世にきました。それは、目の見えない者が見えるようになり、見える者が盲目となるためです。」40 パリサイ人の中でイエスとともにいた人々が、このことを聞いて、イエスに言った。「私たちが盲目なのですか。」41 イエスは彼らに言われた。「もしあなたがたが盲目であったなら、あなたがたに罪はなかったでしょう。しかし、あなたがたは今、『私たちは目が見える』とっています。あなたがたの罪は残るのです。』

⇒明らかに、ここでイエス様がおっしゃられた『盲目』とは、霊的な理解に関することです！ここで、イエス様がおっしゃられたのは、「自分たちは神様のことを…、救いを分かっている！」と豪語していたパリサイ人たちのことです。そんな虚勢を張っているパリサイ人こそが、実は、霊的には盲目で、本当は、救いのことを正しく理解できていないのだ！ということ、イエス様は教えてくださいました。

それと同じように…、今日のみことばであるエペソ5:8も、まだ救われていなかった頃の、私たちのことを、『暗やみ』であったと教えてくださいました…。それは、つまり、かつての私たちが、真の神様のことをほとんど知らずに…、神様から遠く離れていたからです！

皆さん。もしも、今日のみことばで、「あなたがたは、以前は暗やみの中を歩んでいましたが…」というような表現が使われていたとしたら…、私たちは、暗闇そのものではなかった、ということです！私たちは、ただ単に、暗闇の中に迷い込んでしまって…、本来居るべきでないような場所で、寂しく泣いていたような存在で、ただ、暗闇の中をさまよっていただけの…、みじめな…、ある意味においては、かわいそうで、憐れみを受けるべき存在であったと言えるかも知れません…。しかし、聖書のみことばは、そうは教えません！聖書のみことばは、私たちが以前、暗闇の中に居ただけでなく…、暗闇そのものであった…。かつての私たちは、積極的に…、また、意識的に、暗闇を作り出していた、ということを教えてくださいました。

どうぞ、皆さん。あの有名なヨハネ3章をご覧くださいませ？ヨハネ3:16-20には、こう記されています。『16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。17 神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。18 御子を信じる者はさばかれぬ。信じない者は神のひとり子の御名を信じなかったため、すでにさばかれている。19 そのさばきというのは、こうである。光が世にきているのに、人々は光よりもやみを愛した。その行いが悪かったからである。20 悪いことをする者は光を憎み、その行いが明るみに出されることを恐れて、光のほうに来ない。』⇒実は、この19節でも、今日のみことばに出てきた、『暗やみ』(σκότος)と訳されてある言葉が使われています。

ここでヨハネが教えて给你们していることは、「救い主であるイエス様を信じない者は、もう既に、神の裁きを受けている」、ということです。せっかく…、神様が与えようとしてくださっている救いや素晴らしい祝福を、その者は拒んでしまっているのです。そのことが、大きな恵みをふいに失ってしまっている、ということです。もう1つは、神様の正しさと聖さを恐れて、ますます、光から遠ざかってしまっている…。それも、実は、一種の、神様の裁きである、というわけです。

どういうことかと申しますと…、もう少し、詳しく言いますと、どうぞ、皆さん。ローマ1:20-32をご覧ください。『20 神の、目に見えない本性、すなわち神の永遠の力と神性は、世界の創造された時からこのかた、被造物によって知られ、はっきりと認められるのであって、彼らに弁解の余地はないのです。21 それゆえ、

彼らは神を知っていながら、その神を神としてあがめず、感謝もせず、かえってその思いはむなしくなり、その無知な心は暗くなりました。22 彼らは、自分では知者であると言いながら、愚かな者となり、23 不滅の神の御栄えを、滅ぶべき人間や、鳥、獣、はうもののかたち似た物と代えてしまいました。24 それゆえ、神は、彼らをその心の欲望のままに汚れに引き渡され、そのために彼らは、互いにそのからだをはずかしめるようになりました。25 それは、彼らが神の真理を偽りと取り換え、造り主の代わりに造られた物を拝み、これに仕えたからです。造り主こそ、とこしえにほめたえられる方です。アーメン。26 こういうわけで、神は彼らを恥ずべき情欲に引き渡されました。すなわち、女は自然の用を不自然なものに代え、27 同じように、男も、女の自然な用を捨てて男どうして情欲に燃え、男が男と恥ずべきことを行うようになり、こうしてその誤りに対する当然の報いを自分の身に受けているのです。28 また、彼らが神を知ろうとしたがらないので、神は彼らを良くない思いに引き渡され、そのため彼らは、してはならないことをするようになりました。29 彼らは、あらゆる不義と悪とむさぼりと悪意とに満ちた者、ねたみと殺意と争いと欺きと悪くみとでいっぱいになった者、陰口を言う者、30 そしる者、神を憎む者、人を人と思わぬ者、高ぶる者、大言壮語する者、悪事をたくらむ者、親に逆らう者、31 わきまのない者、約束を破る者、情け知らずの者、慈愛のない者です。32 彼らは、そのようなことを行えば、死罪に当たるとする神の定めを知っていながら、それを行っているだけでなく、それを行う者に心から同意しているのです。』

⇒皆さん。このみことばが何を教えて给你们しているか、分かってくださいませ？このみことばが教えて给你们しているのは、「今の私たち人間の、この体たらくは、神様の裁きなどではなくて…、私たち人間が自ら招いた当然の結果であり、自業自得だ！」ということなのです。どうぞ、まずは、24節をご覧くださいませと、性的な罪や問題について書かれてあります。皆さんもご存知でしょ？ここ何十年かで、益々、性的な罪や不品行…、あるいは、不倫などといったことが昔ほど悪ではなくて、日常茶飯事と言うか…、ますます、モラルが崩壊しつつあります…。

また、26-27節では、同性愛に関することが取り上げられています。これに関しても、皆さんはよくご存知です。今は、全世界的な傾向として…、同性愛が認められつつあり、同性同士の結婚を認める国がどんどん増えていっています。まずは、オランダ、ベルギー、スペイン、カナダ、南アフリカなどから始まった傾向ですが、今では、こういった傾向を認めない国の方が少なくなってきたのではないのでしょうか？ある意味、悲しいことに、キリスト教国と呼ばれるような国でさえ、同性婚を認める傾向にあるのです。このように、ますます、世の中のモラルが崩壊していっています。キリスト教国だけでなく、この世の中全体が、どんどん、聖書のみことばから離れつつあるのです。

それだけではありません。例えば今、多くの人たちがロシアによるウクライナ侵攻に関して、心を痛めておられると思います。でも、いくら多くの人たちが、そのことで心を痛めても、実際には、誰もロシアを止めることができないのが現状です。また、いくら多くの人たちが平和を望んで、軍縮や核兵器の廃絶を叫んでも、実際には、核兵器はどんどん増えていっています。ここ日本でだって、つい最近、軍事費の増がほぼ確実にものになりましたでしょ？ローマ3:17のみことばに、『…彼らは平和の道知らない。』とありますが、その通りじゃありません？…私たち人間は、望みさえすれば、月にさえ行けるほどの能力があるにも関わらず、平和に共存することができず、この地球全体をも滅ぼしてしまいかねません。…それほど、私たち人間は皆、罪深く、愚かなのです…。

みことばが教えて给你们しているのは、こういった数々の問題の、根本の原因は、私たち人間の罪だと言うのです！しかも、真の神様を神として認めようとしない…、従おうとしないところに端を発している、と言うのです！だから、今、お読みした聖書のみことばには、『それゆえ…』とか、『引き渡され、そのために…』とか、『こういうわけで…』というような言葉遣いがあったのです。現代では、先程挙げたような性的な問題や、同性愛の問題を病気だと考えます。また、ある人は、「いや、病気じゃない！その人の個性だ！」と考えます。

しかし、聖書は、そういったものを皆、罪であると教えます。そうじゃないでしょうか？

感謝なことに、聖書のみことばは私たちに、何が正しくて…、何が間違っているのかを教えてください。正直言って、もし、私がこの聖書のみことばを知らなかったら、同性愛が正しいことなのか、病気の、あるいは、その人の個性なのか、全く分かりません…。それを知る術がありません！…しかし、私たちに、神様のお言葉である聖書があるが故に、完全ではなくても…、多くのものを、正しく、聖書的に判断することができます。しかし、残念ながら、未信の方には、それができないのです！まだ、真の神様を信じていないからです。本当の意味において、聖書が何たるかをご存知ないからです。

聖書のみことばがあるから、私たちクリスチャンは、向かっていくべき方向が分かります。また、真の神様を信じ、受け入れたから、私たちは何が正しいことで、何が間違っているかをある程度、判断することができます！

でも、残念ながら、未だ、この神様を信じておられない方には、そういったような、善と悪の基準が分かりません…。それだけでなく、ますます、罪の力に引き寄せられて…、知らず知らずの内に、悪の方向に引きずり込まれていくのです。だって、現に、性的な基準が、もうかなり、ゆがめられているじゃないですか！愛さえあれば、結婚しなくても、って…。結婚が、自分の生涯の誓いであると宣言していても、実際は、簡単にその約束を反故にしてしまう人の何と多いことか…。おまけに、同性愛などの問題です…。一体、私たち人間の性的な罪によって…、どれほど多くの悲しい問題や残酷な事件が起こっているのでしょうか？

この世界が、どれほど便利になって…、科学や文化が進んでいっても、私たち人間は相も変わらず、至るところで戦争や紛争を起こし…、虚勢を張って、自分たちに有利なように事を進ませようとします。残念なことに、私たちは、聖書が教える通りに、罪を持って生まれてきたし…、救われた後もなお、罪の影響下にあるのです。

ね、皆さん…。それが、ここローマ1章後半で言われているところの「神の裁き」なのです。悲しいことに、そういったことの故に…、神様を拒み続ける人は、益々、救いの恵みから遠ざかっていってしまっていると、みことばは教えるのです…。

しかも、みことばが教えるのは、私たちクリスチャンも…、「かつては、その中に居たのですよ！」ということです。私たちも、かつては、そんな、暗闇の中にいたばかりか…、そういった「悪の潮流」を作り出していたのです。だから、今、お読みしたローマ1:32でも、『彼らは、そのようなことを行えば、死罪に当たるという神の定めを知っているが、それを行っているだけでなく、それを行う者に心から同意しているのです。』とあります。かつての私たちは、イヤイヤ、罪を犯していたわけではありませんでした。無理矢理に、悪魔に従わせられていたわけではありません。むしろ、そういった流れに、『心から同意して』いた！と、聖書のみことばは教えるのです…。

### ●『主 にあって』とは？

しかし、私たちクリスチャンが感謝すべきなのは、そんな私たちが、神様の一方的な憐れみと愛の故に、恵みによって、救われたということです！今日のみことばでも、8節、『あなたがたは、以前は暗やみでしたが、今は、主 にあって、光となりました。…』とある通りです。天の神様が、私や皆さんに働きかけてくださって、それで私たちが救われたのです！

ここで教えられている、『主 にあって』とは、どういう意味なのでしょう？⇒これは、私たちが暗闇から、光へと変えられた、その原因について教えてくれています。つまり、私たちの主であられるイエス様が、私たちのことを暗闇から光へと変えてくださった、ということです。ですから、新共同訳聖書などは、ここを、「今は主に結ばれて、光となっています。」と意識して(=意味を汲んで、訳して)います。それは、厳密な翻訳と

は言えませんが、この場合は正しいと言い得ると思います。

皆さん、あの有名な、ヨハネ8:12で、イエス様は何とおっしゃられましたか？『…わたしは、世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです。』と、おっしゃられたじゃないですか！イエス様こそ、すべてのものを照らすことができになる、『まことの光』(ヨハネ1:9)なのです。しかし、今紹介したヨハネ8:12では、そのイエス様に従う者も、『いのちの光を持つのです…』と、イエス様は約束してくださりました。私たちクリスチャンは、イエス様を信じる信仰によって、暗闇ではなく、光と変えられたのです！

ここヨハネ8:12で言われている、『従う』とは、単なる行ないのことではありません。これは、イエス様を、神様が遣わしてくださったメシヤ…、つまりは、約束の救い主、キリストと信じる信仰のことです。恐らく、イエス様が、ここで、『わたしに従う者…』などという表現を使ったのは、この同じ、ヨハネ8章後半で、口では、「イエス様を信じた」と告白した者たちが、イエス様に従おうとはせずに、自分の信仰が口先だけの偽りであることを露呈してしまっていますが…、恐らくは、そのことを意識してのことだろうと思います。

### ●『光 となりました』とは？

みことばは教えます、「もしも、あなたが、このイエス様を信じ、このイエス様に従うなら…、あなたも暗闇から、光へと変えられる！」って…。それは、私たち自身が生まれながらに持っているものではありません。イエス様を信じ、救われたことによって、神様が与えてくださる光のことです。だから、Ⅱコリント3:18のみことばは、こう教えてくれています。『私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行きます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。』って…。

### <励ましの言葉>

残念ながら…、私たち人間は、生まれながらに、輝かしい光を持っていません。生まれながらの私たち人間は、暗闇そのものであったのです。しかし、神様が、私たちに輝かしい、神様の御栄光を反射するといふ素晴らしい務めや性質を与えてくださったのです！

神様が、私たちのことを、新しい者へと生まれ変わらせてくださったし、生まれ変わらせてくださるので、聖書を通して、自分の本当の醜さや卑しさ…、また、罪深さを思い知らされた者は、決して、自分自身の光を輝かせたいとは思わないでしょう…。そんなものよりも、もっと素晴らしいことができるのです！私たちのような者が、真の造り主なる、偉大な神様の光を輝かせることができるのです！

どうぞ、そのことを…、まず、神様に感謝する者であってください。そして、そのために、自分のような者が救われ…、そのために生きていくことができることを、神に感謝する者であってほしいと思います。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。